

風疹と胎児への影響

県感染症情報センター

大きな感染症を 知る

◆54◆

7月末ごろから関東地方で風疹の届出数が大幅に増加しています。患者の中心は30代〜50代前半の男性で、女性は20〜30代が多くなっています。風疹は、小児や成人が感染した場合、まれに合併症を伴うこともあります。比較的軽症で経過し、予後良好な疾患です。しかし風疹が問題となるのは、妊娠初期の妊婦が感染することで、胎児に難聴、心疾患、白内障、精神や身体の発達遅れ等の障がいが見られる可能性があることです。今回は風疹について、胎児への影響を中心に話しします。

リンパ節の腫れが現れ、ウイルスに感染しても症状がない人(不顕性感染)が30%程度いるとされます。風疹ウイルスは、患者の飛沫(唾液のしぶき)などによって広

がります。発疹が出た後1週間(計2週間)、患者には感染力があるとされます。なお、感染力は、麻疹(はしか)や水痘(水ぼうそう)ほどは強くありません。

今回の流行での調査では、先天性風疹症候群の赤ちゃんは、出生後半年までにおおよそ4人に1人が亡くなっています。▽ワクチンの重要性

今回の風疹流行の中心は、30〜50代前半の男性で、これは前の流行の時に変わっていません。この世代の男性は、当時のワクチンの制度により、今のような2回のワクチン接種をしておらず、十分な抗体を持っていない人が多いことが調査でも分かっています。

▽30代〜50代男性は予防接種歴の確認を
30〜50代の男性で風疹にかかったことがなく、風疹ワクチンの接種歴がないか不明の方は、早めにワクチン接種することを願いたいと考えます。風疹はワクチンで予防可能な感染症です。

たは県立医科大学付属病院感染制御内科外来(樞原市四条町、電話074-4-221-3051)等へお問い合わせください。▽妊婦と周囲の双方の感染予防が重要
風疹は不顕性感染することや症状も比較的軽くない人がいます。そのような患者からでも距離が近いと飛沫(唾液のしぶき)を受け、感染しやすくなります。前の流行でも関西の都市で流行が始まり、関東へ拡大していきました。今回は、逆に関東で流行し、愛知県で多くなり、徐々に関西で増えてきています。流行している時期には、人混みは避けた方がよいと考えます。

男性を中心に流行中 妊婦の周囲も予防を

妊娠初期(妊娠20週以前)に風疹に感染すると、胎児にも感染し、先天性風疹症候群(CRS)といわれる障がいを持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。母親から生まれてくる報告されています。

妊娠初期(妊娠20週以前)に風疹に感染すると、胎児にも感染し、先天性風疹症候群(CRS)といわれる障がいを持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。母親から生まれてくる報告されています。

妊娠初期(妊娠20週以前)に風疹に感染すると、胎児にも感染し、先天性風疹症候群(CRS)といわれる障がいを持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。母親から生まれてくる報告されています。

妊娠初期(妊娠20週以前)に風疹に感染すると、胎児にも感染し、先天性風疹症候群(CRS)といわれる障がいを持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。母親から生まれてくる報告されています。

妊娠初期(妊娠20週以前)に風疹に感染すると、胎児にも感染し、先天性風疹症候群(CRS)といわれる障がいを持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。母親から生まれてくる報告されています。

妊娠初期(妊娠20週以前)に風疹に感染すると、胎児にも感染し、先天性風疹症候群(CRS)といわれる障がいを持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。母親から生まれてくる報告されています。

妊娠初期(妊娠20週以前)に風疹に感染すると、胎児にも感染し、先天性風疹症候群(CRS)といわれる障がいを持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。母親から生まれてくる報告されています。

▽風疹の特徴

風疹ウイルスに感染後、2〜3週間の潜伏期間を経て、発疹、発熱、

▽先天性風疹症候群(CRS)

妊娠初期(妊娠20週以前)に風疹に感染すると、胎児にも感染し、先天性風疹症候群(CRS)といわれる障がいを持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。母親から生まれてくる報告されています。

▽風疹の予防

風疹はワクチンで予防可能な感染症です。30〜50代の男性で風疹にかかったことがなく、風疹ワクチンの接種歴がないか不明の方は、早めにワクチン接種することを願いたいと考えます。風疹はワクチンで予防可能な感染症です。

▽妊婦と周囲の双方の感染予防が重要

風疹は不顕性感染することや症状も比較的軽くない人がいます。そのような患者からでも距離が近いと飛沫(唾液のしぶき)を受け、感染しやすくなります。前の流行でも関西の都市で流行が始まり、関東へ拡大していきました。今回は、逆に関東で流行し、愛知県で多くなり、徐々に関西で増えてきています。流行している時期には、人混みは避けた方がよいと考えます。

▽風疹含有ワクチンの定期予防接種制度と年齢の関係

▽妊婦と周囲の双方の感染予防が重要

風疹は不顕性感染することや症状も比較的軽くない人がいます。そのような患者からでも距離が近いと飛沫(唾液のしぶき)を受け、感染しやすくなります。前の流行でも関西の都市で流行が始まり、関東へ拡大していきました。今回は、逆に関東で流行し、愛知県で多くなり、徐々に関西で増えてきています。流行している時期には、人混みは避けた方がよいと考えます。

▽風疹含有ワクチンの定期予防接種制度と年齢の関係

風疹は不顕性感染することや症状も比較的軽くない人がいます。そのような患者からでも距離が近いと飛沫(唾液のしぶき)を受け、感染しやすくなります。前の流行でも関西の都市で流行が始まり、関東へ拡大していきました。今回は、逆に関東で流行し、愛知県で多くなり、徐々に関西で増えてきています。流行している時期には、人混みは避けた方がよいと考えます。

風疹含有ワクチンの定期予防接種制度と年齢の関係 (平成30(2018)年9月1日時点)

性別	年齢	接種回数	接種時期
男性	1歳	1回個別接種	小学校入学
	20歳	2回個別接種	28歳5か月
女性	1歳	1回個別接種	小学校入学
	20歳	2回個別接種	28歳5か月
	30歳	1回個別接種	30歳11か月
	40歳	1回個別接種	39歳5か月
	50歳	1回個別接種	56歳5か月

国立感染症研究所感染症疫学センター「風疹急増に関する緊急情報」(2018年9月19日現在)から

妊婦を希望する女性だけが対策するのはなく、風疹ウイルスが妊婦に近づかないよう、周囲の方も感染しないように、厳重な注意が必要です。(県感染症情報センター)